林野火災を防ぐ

大切な森林と命を守るために 今、できること。



芦屋の美しいまちを彩る山々と豊かな自然。
その景色を、一瞬にして失わせてしまうのが林野火災です。
林野火災はひとたび発生すると瞬く間に燃え広がり、消火活動も困難を極めます。
大切な芦屋の自然と暮らしを未来へつなぐために、今こそ一人ひとりが火災予防について考え、行動しましょう。

問い合わせ　消防本部☎32-2345

林野火災ってどんな火事？

林野火災は、たき火やたばこ、火入れなど小さな火が原因で発生することが多く、乾燥や強風によって一気に広がり大きな災害になってしまいます。豊かな緑があっという間に灰になり、元の森に戻るまでには、何十年もの長い時間が必要です。

林野火災の原因は「自然災害」ではない？

２月～５月は、枯れた草や葉を焼却するための「たき火」や、害虫駆除などを目的として草や木などを広く焼却する「火入れ」が行われるなど、火を扱う機会が増えます。その際に消火が不十分であったり、強風下などの気象条件で火を扱ったりすることなどが原因です。
また、春先には山菜採りやハイキングなどで入山者が増えることで、たばこなど火の不始末が発生しやすくなることにも注意が必要です。

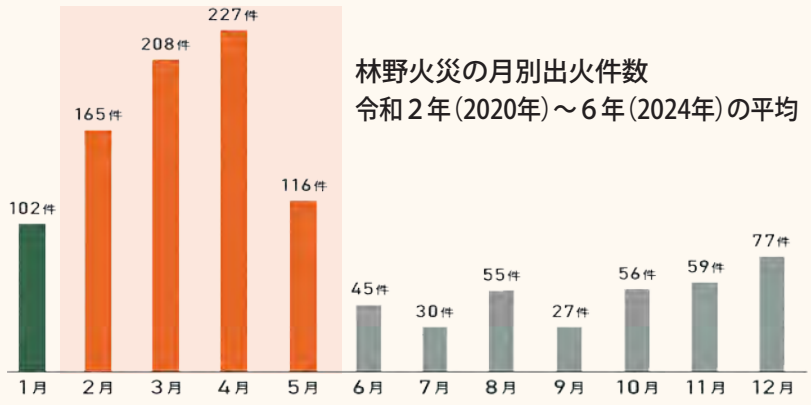


消防庁統計資料に基づいて作成

カミナリなどの自然現象で起きる林野火災はごくわずか。実は、原因の多くが「私たちの不注意」によるものです。つまり、私たちが気をつければ、林野火災は防ぐことができるのです。

林野火災が発生しやすい季節は「春」

林野火災は、年間を通じて発生していますが、特に２月～５月にかけて多く発生する傾向があります。この時期は、降水量が少なく空気が乾燥し、強風が吹くなど、火災が発生しやすい気象条件が重なることも原因とみられています。下のグラフは、令和２年（2020年）～令和６年（2024年）の全国の月別出火件数の平均を示したもので、出火件数の６割超が２月～５月に集中しています。なお、令和７年（2025年）以降に発生した林野火災は、この統計には含まれていませんが、令和７年は、２月に岩手県大船渡市、３月には愛媛県今治市と岡山県岡山市で、大規模な林野火災が相次いで発生しました。



消防庁統計資料に基づいて作成

林野火災予防のポイント

- ☑ 乾燥・強風の日は火を使わない。
- ☑ たき火や火入れは複数人で行う。
- ☑ 火から目を離さない。
- ☑ 消火用の水を用意する。
- ☑ 使用後は完全に消火する。
- ☑ たばこの投げ捨て、火遊びは絶対しない。

